

## 略 歴

1926年5月和歌山県粉河町に生まれる。東京大学法学部政治学科卒業、同大学院修了。第二次世界大戦の惨劇を目にしたことから世界平和の為の世界連邦設立の可能性について研究する。東大総長南原繁、法学部教授堀豊彦、キリスト教の指導者賀川豊彦らに師事。1949年11月渡米。世界連邦設立に関する研究を発展させるためコロンビア大学大学院政治学科で研究。在学中にはヨーロッパ諸国を訪問、また世界平和に関する問題を解決するべくノーマン・カズンズ、アルベルト・アインシュタイン、トーマス・マン、アプトン・シンクレアその他思想界の人々の卓見を仰ぐが、後に政治的手段による解決では世界の平和と全人類の幸福を達成するに至らないと確信する。ニューヨーク五番街とタイムズ・スクエアに立ち、自問と執拗なまでの人間観察の後に、平和問題は政治機構を超えて人類を健康と平和な人間性に進化させることが最も大切であることを確認。そのためには環境と食物を正すことが必要であることを発見し、各国の食文化、東洋、西洋の伝統食などを検討し始める。その中で古代ギリシャ、中国などといった世界中の食文化やジョージ・オーサワ(桜沢如一)、その先達等の思想影響を受け、生涯を東洋思想と西洋思想の融合に基づいた人間の生き方、宇宙観を基礎として世界の食形態を変えていくことを決意する。

その後、1951年に渡米したアヴェリーヌ偕子夫人(1923-2001年)と共に穀菜食を中心とするクシマクロビオティック標準食を編成し、自然食、オーガニック農業、各種代替医学、鍼灸、指圧、手のひら療法、瞑想、漢方等の東洋の伝統医学と共にこれを国際化するため、70年に渡り全米を中心とした教育啓蒙活動を精力的に行う。その活動はアメリカ、カナダの主要都市のみならず、ヨーロッパのすべての国々、アジアの数ヶ国におよび、年に数百の講演会、セミナー、研修会等を各地で展開する。日本では2000年より米国久司学院(Kushi Institute)の料理講座 KIIIX が開設し(2014年よりKMCCという名称でプログラムを再編成、2018年よりレベル1にプログラム名称変更)、多くの人々がクシマクロビオティック理論と料理法を学んでいる。二人の起こしたムーブメントはアメリカを中心とした世界各国の自然食やオーガニックフード運動を引き起こし、今までに多くの優秀な生産者、メーカー、自然食品店を鼓舞し発展普及させている。

久司の英文著作は、80冊以上、小冊子は数十冊が米国出版社から出版され、多くが数ヶ国語に訳され欧米各地に普及している。クシマクロビオティックスにより各種の病気から回復した欧米人は数万に上り、その中には医学的に不治の病気も多数含まれるため、ハーバード大学医学部の代替医学研究、サウスキャロライナ大学公共健康部門その他の大学研究機関の研究対象になっている。また国連ではその職員有志達が国際マクロビオティック協会を組織している。

1995年、国連作家協会より優秀賞を授与。及び「米国の食生活改善に多大な功績があった」としてロードアイランド上院より表彰状を授与される。同年、世界数十拠点にチェーンを持つ高級ホテル「リッツカールトン」がクシヘルスマニューを導入する。1997年、ベルギーアントワープ市より「エコロジーと自然の理に叶った生活様式と食生活による健康に貢献した」として表彰される。1999年、米国国立歴史博物館の「スミソニアン」にクシファミリーコレクションとして過去50年の業績を代表する各種出版物や研究資料、食品および文化資料が今後継続して収集されアメリカの歴史資料として永久保存されることが決定する。同年6月、米国国会下院において久司の業績を公認する決議が行なわれる。2000年、「地球擁護協会」と関連するマサチューセッツ州の“ピースアベイ”より平和賞を贈呈される。

2007年、宮渡夫人と共に、さらにクシマクロビオティックス、代替医学、自然食を通しての世界的教育を展開する。

2014年12月、宮渡夫人に見守られ、安らかに永眠する。

2020年9月記